

## 3579 地球のかおり 「大地の叫び」(産経新聞)：状況

アイルランドの海岸線での出会い。波のいたずらだろうか、  
それともマグマの活動だろうか。自然現象は興味深い。  
イングランド、スコットランド、アイルランド、  
大英帝国圏探訪の始まりは、ロンドンだった。

学生時代の ESS 英語クラブの仲間、H 氏。母校大学院、ビジネススクールの学科長の教授。  
当時、イギリスシェフィールド大学の日本文化研究所・所長として 10 年、  
イギリスに居を構えておられた。2018 年現在、イギリスに戻られ、今も研究されている。  
H 氏の紹介で、レンタカー始め、紹介、いろいろお世話になった。

彼が、英国を選んだ理由は何だろう。他の友人は、アメリカを目指した。  
どんな魅力があったのか。今は昔話だが、何となく、彼の居る英国に興味を持っていた。  
親しみも感じていた。ぜひ一度、ゆっくりと身を置き、大英帝国圏の歴史と文化、  
そして、地勢を取材したいという思いを抱いていた。

日本の 6 月から 7 月にかけてロンドンへ。1 ヶ月を超える時間をかけることに。  
以前、欧州でイギリスのことを尋ねたことがある。飛行機で旅するフランスの青年だった。  
自国への誇りなのか、フランスの良さを言いたかったのか、イギリスにあるものは、  
すべて、フランスにあるので、あまり興味ないと、いささか驚いた答えだった。  
私はへそ曲がり。過去の国と言いたかったのか、自分で体感しないと納得できない。  
人間それぞれ感性も考え方も価値観も違う。生活も違う。  
先入観や固定概念となる情報や知識は排除したい。最小限の必要事項だけ入手。  
現地で体感し学ぶ。フランスも、その時点で、すでに複数回訪ねている。  
違いを知る意味では、青年の話は参考になった。今回は、特に心して観てやろう。  
久楽流は、直感や体感、感性を大切にする旅。積み重ねてきた  
無意識の典型的な日本人の感性や美意識。素直に感動や感性を記録する取材旅。  
1 ヶ月を超える旅、長いようで短い。時間も心の余裕もあった。  
後半、イギリス南部を、隅々までまわる計画、少し慣れた南下の道程で、  
アイルランドを訪ねることにした。

ロンドンから始まり、まず、北上、エディンバラ経由、スコットランドへ。  
ゴルフで著名なセントアンドリュースも訪ね、独特の風も感じてきた。  
ネッシーで有名なネス湖、スカイ湖、そして、道草を重ね、リターンして南下。  
スコットランドの最南端に位置する、ストランラーという港町に到着。

何事も体験。見聞を広げる。パブでの楽しいひととき。レストランでの夕食。  
海外を旅していて、男ひとり。何ともかっこ良く見える人がある。  
片隅で読書している人、夢とロマン、哀感、身体からにじみ出ている、雰囲気のある  
大人の男性2、憧れてしまう。  
いろいろ抱えているのだろうが、堂々と。孤独をひとり楽しんでいる。  
それ以上の詮索<sup>せんさく</sup>は、野暮というもの。  
男ひとり旅。港町。フェリーで行き交う人。フェリー発着場には、風情や旅情がある。  
そんな感じ方をする人は、少数派なのか。風情、死語になってほしくない。

同じような建物ばかり、そんな箱ものに旅の風情も旅情を感じにくい。  
このストランラーという港町、実に風情のある港町に感じた。現存していたのが嬉しい。  
アイルランドに行く人、帰ってくる人、イギリス人だろうか、  
スコットランド人だろうか、それとも、アイルランド人だろうか。  
日本人の私には、判別が難しい。  
そんな静かな楽しい時間を楽しんだ後、フェリーで、アイルランド・ベルファストへ。

首都であるベルファストは、活気あふれた都市。過去の華麗な時代を物語る建築物。  
市役所やアルスター博物館。歴史遺産は素晴らしい。フットワークよく楽しんだ。  
都会の中で感じる有情、無情。自然に囲まれて感じる有情、無情。  
私の好奇心は広範囲。ジャンルを問わない。しかし、どちらかというとも都市より自然。  
博物館や美術館、歴史遺産を含めて。数多く、世界の都市を見てきている。  
贅沢な話だが、個性のない、同じような都市は、心が喜ばない。  
土地土地の個性ある自然の中に身を置く。そのひとときが、至福の時間。  
生きていて良かったと実感する時間。  
アイルランドの期待が膨らむ。そして、海岸線を周遊するコースを選択。  
急ぐ旅ではない。いつものように好奇心いっぱい。  
なんでも見てやろう。体験してやろう。道草の旅が始まった。

北端の海岸に延々とつづく、世界遺産、奇岩のジャイアンツ・コースウェイ。  
この時は、訪ねる人が少なく、閑散としていた。実に個性ある景勝地。  
私には、見たことのないような光景の方が、感動が違う。  
当時、テレビや映像は見ないようにしていた。現場で体感する光景が最高。  
そうしないと、心象アートの作品ができない。  
禅寺、円覚寺に十年も座住したのは、そのためでもある。

そして、北北西から西へ進路を、海岸線が延々とつづく。  
すでに宿泊しているので、状況もわかる。海沿いに、どこまで来たのだろう。  
平凡な海岸線。名もなき、何気ない光景に心惹かれ、休憩することにした。  
アイルランド紛争、いささか、緊張感のあることもあった。

少し疲れていたの、甘いものを口に。口の中に広がった。  
ひと口のおいしい水を口に、やすらぎの時。海岸近くの小山に腰をおろした。  
打ち寄せる波、広々とした海原。大自然の中を旅していると、  
様々な自然現象を目撃する機会が多い。それは驚き。なんとも楽しい出来事。  
地の果てや辺境を旅すると、なおさらである。

初めての光景に出くわすほど、面白いことはない。  
先ほどの奇岩のジャイアンツ・コースウェイ。いつ行っても、行けば見られる。  
時々で表情は違うものの、感動はそがれる。一期一会の瞬き、まぼろし、  
この感動は、現場に立たないと感じられない。  
だから、何も考えず、直感と感性を頼りの瞬きを素直にフィルムスケッチする。  
それがその時の心境、心の有り様。

何気なく目をやった。地下にマグマがあるのだろうか。  
それとも予想を超える、大波のなせるわざなのだろうか。  
地下の岩盤に、海水の通る空洞があるのか、推理するのが何ともロマン。  
一期一会の出会いから、思いが広がる。  
噴き出す様は、一回一回違う。勢いも、その様も、観察が実に楽しい。  
日常ではやり過ごすことが多い。詳細に見ないことが多い。  
自然の驚異と神秘。目撃したのは、この一箇所だけ。これが実に不思議で面白い。

あまり、説明や科学的に解明して露出、外に見せないことも大切なように思う。  
科学としての研究の必要性とは別。感動という人間の楽しみも残して欲しい。  
あまりに何もかも露出は困る。私には楽しくない。知らないことがあったほうがいい。

感受性が鈍感になると、人生が楽しくなくなるように思う。

少し長く生きた久楽の感想。

若い時は、若い時に、やっておいた方が良いこともある。その年齢や状況で、  
人生の思いも変わってくる。見え方も感じ方も変わってくるもの。多種多様な楽しみ方。

たまたま目撃。しばらくの間、眺めていた。あれこれ推理や想像。  
においはあまりしなかった記憶がある。不思議に記憶に残っている。地球の営みの面白さ。  
海のかおりの方が強かった。見上げる空、海の向こうの方に想いを馳せる。  
欧州大陸が広がっている。ゆったりと流れるアイルランド。  
波の音以外聞こえない中、好きし、肌に風を感じる。  
地球のうなり声のようにも聞こえる。場違いな音がした。  
耳を澄ますと、定期的でもない。しかし、心地よいリズム。

そして、勢いのいい噴出音が耳をとらえた。地球は不思議な星。素朴な今回の出会い。  
日常からかけ離れた光景。これは人間に必要な光景なのだろうか。  
そんなことを思った。何かを得て、何かを失う。こぼれた水は、お盆に返せない。

ふと、この噴出。地球のサインかも。

もっと自然を大切にというアピールかもしれない。

自然と人間、今以上、バランスを崩すと恐ろしい。自然の恵みがなくなるのが恐ろしい。

考えすぎだろうか。こじつけすぎだろうか。

地球の悲鳴、地球の叫び、私には、そう聞こえてきたように感じた。

新聞掲載は、限られた文字数。まとめるための下書きは、その時の思いをそのまま。  
その時の思いが目に浮かぶ。舞台裏では四苦八苦。それでも、産経新聞、毎週月曜日掲載。  
七年も続いたことに感謝したい。今は、いい思い出、心の財産。  
少しでも長く夢挑戦。生涯現役は、夢のまた夢だが、汗かき、恥かき、前進するのみ。